あいさつ

日本包装管理士会
本部理事　羽馬　友子

初めまして。私は、羽馬友子と申します。包装管理士会の本部理事、及び関西支部の運営委員を拝命しております。この度は、冒頭の挨拶文を書くということで少し緊張しておりますが、宜しくお願い申し上げます。

私は、包装関連の企業に勤務していたご縁で、包装管理士講座を受講後、包装管理士会に入会致しました。皆様ご存じの通り、包装管理士会は、セミナーや見学会等を通して包装に関する最新の情報や技術動向を学べる場を提供しております。包装管理士会の会員構成は、講座を卒業した若手から超ベテランまで、幅広い層が混在していることが、他の団体とは異なる大きな魅力の一つです。

昨今、少子化等、日本社会では大きな問題に直面しております。その様な中で、この間口が広くかつ会員の層に包括力のある団体の重要性を維持しつつ、他団体とも連携し、包装管理士会の多様ならではのものを提供できる、“管理士会自体のブランディング化”も具現化できれば好ましいと考えております。そのため、現在行っているHPやSNSをさらに充実・進化させ、関係各位のご協力のもと、広報活動の活発化にも注力していきたいとも思いますので、今後とも宜しくお願い申し上げます（実は、私は、ippニュースの編集委員でもあります）。

現在、包装業界では、SDGs等の持続可能な社会や経済の実現に関し、海外（EU、米国や国際機関等）が策定するルールや制度の度重なる改正への素早い対応が日常の風景となっています。従来からの欧米主導の国際的なルールや制度作りに関し、日本においても、優れた技術等が活きるルール作りの体制作りに（日本のある大手宅急便会社と省庁等と英国の規格協会が協力により、得意な冷凍小口宅急便の規格作りに成功した例等）、世界の潮流に適応すべく日々頑張っておられます。

ただ、皆様既にご存じの通り、サーキュラーエコノミーや持続可能な経済・社会の実現化の推進が、今までの変革と異なる点は、それらの概念を基に、経済面のみならず、社会・国家システム全体を包括的に含む規模で、ルールや制度の変革の推進が求められている点にあります。更に日本企業では、投資家に対する責任の一環として、法令順守―“企業のコンプライアンス（倫理）”―に対する配慮も、年々重要視されてきております。これらのある面、（海外由来の）人間の価値観の変革をも含んだ、多層的・多面的な要求や流れに対処するため、心ある日本の省庁や企業・団体は、日夜粉骨砕身、努力をされています。

（次ページに続きます。）

《INDEX》

日本包装管理士会 羽馬理事挨拶 1
総会 決議報告 3
本部だより 9
支部だより 9

Institute of Packaging Professionals, Japan

PACKGING INFORMATION
包装技術者の連携と協力をめざす
日本包装管理士会 会報
No.139

ipp news

ipp news
2025年8月26日発行
編集人／道明　誠
発行／日本包装管理士会
東京都中央区築地4-1-1
TEL 03-3543-9250

更に技術開発においても、従来のように“技術の高み”を目指し、海外と競争・又は社会に貢献する以外にも、例えばリサイクル推進の面を例に挙げると、“受入れの国のインフラや消費文化に合わせて、リサイクル技術水準やシステムの組み合わせを変える提案が必要となり、（勿論、私個人としては、持続可能性やコンプライアンスに関しては、その趣旨には賛成致しますが)、多層化・複雑化が極まってきている現状があります。と同時に、昭和時代から続いてきた熾烈な市場競争―例えば、近年の日本最大自動車メーカーのハイブリッド技術に対する、EUのEV車政策の顛末を見るにつけ、いまだに昭和からの“仁義なき戦い”の側面も、市場には依然存在しています。

このような多層的・多様でかつ難しく、世界から押し寄せてくる経済・社会の変革に対し、全方位に気を配りながら、日夜業務に従事しておられる、特に包装業界の皆様方には本当に敬意を表したいと思います。各種課題に関して補足的に申し上げるとすれば、個人的には、現在日常的に24時間インターネット情報が頭に流入する状況下で、あえて“頭（脳）に余白の時間を５分でも毎日作る”一等の“空の時間”を作ることも、問題解決に有用かもしれないとも思っています。同時に、注目されてきた“日本の集合知（又は集団的知性―長くなるので定義は割愛します)”を用いた解決方法の再評価と（アップデートした）採用も問題の解決に有効かとも感じております。そして、それらの“三人寄れば文殊の知恵”的な、伝統的な解決プロセス提供の場として、包装業界においては、全国組織の中立的な団体としての包装管理士会が、貢献できる事柄が今後益々増えていくのではないか―と感じております。私も、本当に微力かとは存じますが、包装管理士会を通して、今までの業界に対する恩返しも兼ねて、皆様のお役に立ちたいと考えております。

今後共、何卒宜しくお願い申し上げます。

つつむ君からの手紙

「ippニュース」に関するお知らせ

日本包装管理士会の会報『ippニュース』は、年2回（夏号・冬号）発行しております。昨年度より、両号とも電子発行（PDF形式）に移行し、ホームページに掲載しています。引き続き、カラーで見やすく、内容も充実した紙面づくりに努めてまいります。

Webでの展開に伴い、メールによるご案内が重要となっておりますが、事務局からのメールが一部届かないケースが確認されています。恐れ入りますが、メールの受信設定をご確認いただき、万が一届かない場合は、事務局（ipp@pk9.so-net.ne.jp）までご連絡ください。

また、読者の皆様からのご意見・ご感想も歓迎しております。ご関心のある話題やご要望など、どうぞお気軽にメールをお寄せいただけますと幸いです。

日本包装管理士会
定時総会

技術士包装物流会 副会長　坂巻千尋様（写真右）
日本コンサルタント協会 理事　野田治郎様（写真中）
日本包装専士会 会長・嶋雅文様 (写真左)

第59回定時総会報告

2025/07/24
事務局　井上伸也

第 59 回日本包装管理士会定時総会は 2025 年6 月24 日（火）に、会場参加（対面方式）と Web 参加および議決権投票ハガキによる個別審議参加の3方式の併用で実施されました。
ご来賓に、技術士包装物流会・坂巻千尋副会長、日本包装コンサルタント協会・野田治郎理事、日本包装専士会・嶋雅文会長をお迎えし、ご挨拶をいただきました。
そして、総会後の情報交換会では、和やかな雰囲気で交流を深めることが出来ました。

会員の総会参加は、会場参加12名、Web参加4名で、投票はがき回収数は185通となり、総会成立のために必要な101名を上回る参加数であり、参加率は約40％とやや低調でした。

議決権行使のハガキは6月20日までに投票（投函）していただくことをお願いし、6月24日午前中事務局到着分までを総会開会時の各種報告に使用しました。そして6月27日までの事務局受け取り分を有効として最終集計を行い、議事録に記載しました。
また、会場参加者およびWeb参加者の投票は総会当日の意思表示を優先した集計としました。

定款の第17条に定足数「（1）総会は、出席者数の合計が全会員数の1/5以上の出席で成立する。（2）書面、または代理人による表決者は出席したものとみなす。」となっており、本総会は定款に則り成立しました。
結果は以下の通りです。

回収された議決権行使ハガキの詳細内容

1. 会員数：504名
2. 投票数：201票　投票率＝39.9%　（内訳：有効票＝201票、無効票＝0票）
3. 有効票：201票　有効票の内訳は、
　　議決権行使・賛成＝85票、否認＝１票、委任票＝115票
4. 議決権行使結果　（委任票115票は賛成票として集計）
　　1号議案　2024年度事業活動報告及び収支決算報告　⇒　賛成200票で承認
　　2号議案　監査報告　⇒　賛成200票で承認
　　3号議案　2025年度事業活動計画(案)及び収支予算(案)　⇒　賛成200票で承認
　　4号議案　IPP再構築委員会WG報告と提案審議　⇒　賛成198票で承認

（西日本支部 、関西支部、東北支部 ）
遠方よりご出席くださった
役員の皆様にも感謝申し上げます。

通信障害で皆様にご迷惑をお掛けしました。
また、鈴木支部長には復旧作業にご尽力いただき
誠にありがとうございました。

総会終了後の交流

今年度は役員改選が無く、同じメンバーで 2 年目の任期に入ります。昨年の総会で新会長に就任された古平篤会長のもとで活動した 1 年の総括と今後が活発に討議されました。そして、第 4 号議案の IPP 再構築提案により支部主体の活動から IPP 全体として活動へ舵が切られました。
第4 号議案で承認された内容の行動項目は次の通りです。
（詳細はHP の議案書をご覧ください）
① 支部運営転換および移行措置
② 全国組織としての合理化
③ JPI 連携強化と副会長の新たな役割
④ 会員管理システムの改善
⑤ 地域活動連絡会の設置と新運用ルールの策定
⑥ 魅力ある事業実現のためのヒアリング
⑦ 広報委員会の設置

提案の実現に向けて動き始めました。2025 年度を試走期間とし、2026 年度実施です。ただ、役員（特に本部担当理事）の人数不足もあります。支部代表も兼ねる支部長兼理事を合わせても 9 名と少数です。役員会なども Web 使用の会議に移行しており、遠隔地からの本部活動への参加も可能となっておりますので、理事として運営に参画していただける方をお待ちしています。会の運営を順調に行うためにも定員までの理事増員は必須の状況です。定款には、理事定員は 20 名以内と定められており、期の途中でも理事への立候補は可能です。身近な役員あるいは事務局までご連絡ください。理事会の承認を得た途中就任理事の任期は現理事と同じく 2026 年4 月末日までとなります。一日でも早くご決断ください。
総会の実施方式については、前年に続き議決権行使ハガキが 100%回収されなかったことは残念に思いますが、3 方式併用を受け入れていただいた会員各位には大変感謝いたしております。コロナ禍を契機として始めたこの方式ですが、総会方式として定着したと考えております。これからもご理解ご協力をいただけるようお願いいたします。

総会会場および Web 配信会場としては、「アットビジネスセンター池袋駅前別館 804 室」を使用いたしました。会場はリアル参加者を想定し余裕のある広さとして定員30名の部屋を準備し、Web 参加者には会場保有の高速 Wi-Fi 回線を使用して配信を行いましたが、使用機器の集中によるWi-Fi 接続の不安定により途中切断があったことや、IPP の保有機器不足とシステムや機器を使いこなせていないことには今後の対応が必要です。

関西支部総会

◆関西支部定時総会

2025年6月5日 15:40～16:50
大阪市立総合生涯学習センター

会場10名＋委任15名 計25名で、支部会員1/5以上により総会は成立（支部会員77名）。

桃川支部長より、2024年度は会員サービスの向上や会員増強に向けての活動を展開し、1名の入会はあったが、会員は82名から77名に減少した。ミニ・セミナーは4回/年から2回/年に削減したが代わりに工場見学会＆セミナーを1回/年から2回/年に追加、テクニカルセミナー、包装管理士合格記念ツアーなどを新たに行った。
2025年度も同様に活動を継続し、会員の交流会の費用負担を軽減し、他の包装団体との差別化を図ることにした。
提示された議案は全て拍手をもって承認された。

総会の風景

関東支部総会

第53回関東支部定時総会に関するご報告

関東支部長 古平 篤（25期）

関東支部第53回定時総会は、2025年6月24日（火曜日）13時30分～14時30分まで、池袋の駅の近くにあるアットビジネスセンター802号室で開催され、同時にWebでも配信されました。
また、e-mailでも関東支部の会員に送信し、議決権行使は今回からGoogleフォームでの投票といたしました。当日会場での参加者8名、Webでの参加者1名。総会に参加された皆様、誠にありがとうございました。回収させていただいた議決権行使のGoogleフォームおよびはがきの結果は次の通りです。

関東支部登録会員214名の1/5、すなわち43名以上であることから、本総会は成立しました。

定足数：43名（会員数214名の有効定足数は定款第17条により会員の1/5＝43名）
投票数：50票　Googleフォーム及びはがきでの投票・当日会場、Webでの参加投票
有効票：50票　Googleフォーム及びはがきでの投票・当日会場、Webでの参加投票（無効票0票）
（内訳：はがきでの賛成票：10票、当日参加による賛成票：9票、
Googleフォームでの賛成票：31票）

1号議案＝2024年度事業活動報告及び2024年度収支決算報告承認の件
⇒ 承認されました。
2号議案＝2024年度監査報告
⇒ 承認されました。
3号議案＝2025年度事業活動計画（案）及び収支予算（案）審議の件
⇒ 承認されました。

中部支部総会

【第56回中部支部定期総会（書面審議）】

2025年度の「第56回中部支部定期総会」について、一昨年度より総会の目的でもある各年度の事業内容を広く確認・審議いただく形が望ましいとの判断から、全支部会員のお手元に議案書が行き渡る形の「書面審議」による定期総会の開催としており、中部支部運営委員会での検討の結果、今年度も同様の方式にて実施いただくことといたしました。

中部支部運営委員において事前に審議・承認をいただいた「第56回中部支部定期総会議案書」を中部支部会員各位に郵送した上で、「審議内容同意書」を返送いただく形での手続きを以て総会での審議に代え、多数の同意をもって各議案が承認されました。

【2025年度事業計画について】

2025年度の事業計画に関して、前年度に引き続きJPI全支部共同のオンライン講演会（ウェビナー）として開催される「JPI WEBフォーラム」のうち、JPI中部支部で企画・運営を担当するウェビナーについて、IPP中部支部との共催を継続し、IPP中部支部の所属会員も引き続き参加費無料にてご参加いただけます。

「JPI WEBフォーラム」以外の研修事業（包装技術講習会・日本パッケージングコンテスト入賞作品発表会・包装技術研究大会中部大会）については、従来通りJPI中部支部と共同で企画運営を進め、中部支部の独自事業として対面・オンラインどちらでの聴講も可能となる形式にて実施を予定しており、詳細については開催案内パンフレットにて皆様にご案内申し上げます。

賀詞交歓会等の会員交流事業についても、引き続き例年同様の形式で実施を予定しており、引き続き会員の皆様のニーズに沿った事業運営が行えるよう、支部長をはじめとする中部支部運営委員一同・事務局が一丸となって取り組んでまいりますので、今後ともご理解・ご協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

西日本支部総会

◆第48回 西日本支部 定時総会

第48回日本包装管理士会西日本支部定例総会は、対面にて、5月17日に開催いたしました。会員の方には、従来と同様に活動報告・決算報告を会員の皆様にEメールまたは郵便で送付し、委任状を返送していただき、委任状の返送数が会員の過半数を超えました。この場をお借りしまして、お礼を申し上げます。

本年度の事業計画は、以下の通りです。

・役員会：年4回　　※対面にての開催を予定
・研究会、後援会、見学会、交流会等：JPI西日本支部と共催

役員は昨年度に引き続き担当制とし、以下の通り選任されました。

・支部長　：末松 洋亮（IPPニュース・企画等）
・副支部長：森永 浩史（JPI西日本支部事務局長・広報・企画）
・事務局長：八田 彰（事務局・企画）
・理事　：中村 格勇（出納・企画等）
・顧問　：藤生 廣来（総括）

2024年度
IPP再構築委員会

大阪市立 難波市民学習センターにて

2024年度　IPP再構築委員会　最終報告

IPP再構築委員会委員長　道明　誠（23期）

この一年、私たちは「組織の再構築」という大きなテーマを前に、何をどう整えるべきかを探りながら、委員会として対話と検討を重ねてきました。きっかけとなったのは、近年の会員数の減少や役員の高齢化、財政上の偏在といった複合的な問題でした。それらは制度や仕組みの見直しだけで解決できるものではなく、「会の空気そのもの」を問い直す必要がある――そんな実感を強く抱いて、委員会はスタートしました。

委員会では、組織構造や予算の流れ、支部間の協調と分担、若手や新規会員の参画機会などについて、多面的に議論しました。一つひとつの論点に対し、「制度の形」だけでなく、「そこにいる人の意見や気持ち」を見つめながら、丁寧な対話を心がけました。

しかし、私たちは活動の後半で、一つの大きな問いに直面することになります。それは、「制度を整えても、人が離れていくことがある」という現実でした。静かに、しかし深い決意と共に理事の役目を降りられた方がおられました。会の将来を誰よりも真剣に考え、誠実に役割を果たしてこられた方です。その姿勢と信念に、私は深い敬意を抱くと同時に、貴重な人材を失ったことの大きさに、しばし言葉を失いました。この出来事は私たちにとって、極めて重くのしかかるものであり、将来への道筋を見失いかけた感覚さえ覚えました。制度と信頼がずれていくとき、組織は“外形を保ちつつ、中から崩れていく”という感覚を、身をもって体験しました。

再構築とは、決して改革の号令ではなく、むしろ「問いに向き合い続ける姿勢」を持ち続けることなのだと、今は感じています。いまここで、すべてを正解に導くことはできません。しかし私たちは、問いの中に希望が宿ることを信じ、道を整える作業をこれからも静かに進めていきたいと思っています。

以下の報告内容は、委員会で討議された提案を理事会に上程したものです。ご参照いただくとともに、総会決議に基づき粛々と2026年に開催される総会に向けて準備を進めてまいります。引き続き会員各位のご協力をお願いいたします。

【日本包装管理士会 本部理事会提出】
再構築委員会 報告書
2025 年 4月 8日

1．はじめに
本報告書は、再構築委員会における一年間の検討結果をもとに、支部運営の現状把握と今後の組織改革についてまとめたものです。各支部からの現況報告を踏まえ、現場での運営上の課題および会員管理、全国組織としての合理化など、多角的な視点から改善策が議論されました。ここでは、支部単体運営からの転換に向けた移行措置とともに、JPI との連携強化、副会長の新たな役割、会員管理システムの見直し、地域連絡体制の再構築、魅力ある事業展開のための各所ヒアリング、広報委員会の設置など、具体的な提言をまとめています。

2． 支部現況の把握と問題点の抽出（詳細省略）
3．議論の経過と方向性の検討（詳細省略）
4．提言事項
委員会として、本部理事会へ以下の具体的な提言を上程いたします。

1. 支部運営転換および移行措置
   ・移行期間（1 年）を設け、各支部の解散とそれに伴う新たな運営体制への移行を進める。
   ・移行期間中は、現状の事業活動は縮小せず、現場の活動維持を最優先とする。
2. 全国組織としての合理化
   ・各支部の運営を統合し、委員会活動を通じて計画・立案・運営を行うことで、一元管理体制を構築する。
   ・全国規模での効率的な情報共有システムの導入を検討する。
3. JPI との連携強化と副会長の新たな役割
   ・JPI 本部との事業運営に関する検討・調整を行う窓口として委員会を設置し、積極的に JPI の活動に協力していく。
   ・副会長の新たな調整・連絡役としての役割を明確化し、組織間の橋渡しを担っていただくため、JPI 支部が設置されている地域に副会長を窓口責任者として数名配置する案を提案する。なお、統括責任は筆頭の副会長が担う。
4. 会員管理システムの改善
   ・メール運用による現行の会員管理システムの不備を解消するため、最新の情報管理システムへの刷新を検討する。
   ・システム更新により、会員情報の正確な把握と迅速な連絡体制を確立する。
5. 地域活動連絡会の設置と新運用ルールの策定
   ・本部に連絡会（地域活動連絡会）を設置し、地域間の情報共有と協力体制を確立する。
   ・新たな運用ルールを策定し、各地域の活動効率向上を図る。
6. 魅力ある事業実現のために会員の声を集める
   ・会員を対象にヒアリング調査を実施し、今後の魅力ある事業や企画に対するニーズを把握する。
   ・調査結果を基に、具体的な事業企画や改善策を策定する。
7. 広報委員会の設置
   ・IPP の存在および活動内容を会員、非会員、一般の方々に広く周知するため、専任の広報委員会を新たに設置する。
   ・広報活動を強化するとともに、ホームページの修正やメルマガの整備などを含め、事業参加を促進するためのプロモーション戦略を策定する。
   ・SNS の活用やオンラインセミナーの告知方法改善なども検討していく。

【本部理事会の決定事項（第59回定時総会 決議事項）】

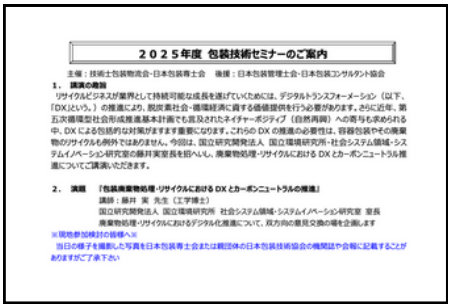
・ 再構築委員会の提言を受け、支部運営転換については2025年度を移行措置期間とし試行し、2026年度総会で決する。2025年度の支部活動費は定款に基づき配分率を提示し、事業計画に基づく提案（支部間の資金調整）をする。

・ 必要な委員会（広報、地域連絡、財務・総務）を2025年度内に設置し、連携強化、新システム導入、魅力ある事業実現を図る。

・ 財政の一本化に向けて、支部基金や使途限定積立金、繰越余剰金等の扱いについて再確認と方向性を明示し、2026年度総会で決する。

・ 2026年度はIPP創立60周年にあたるため、IPP全体および支部運営転換とも連動させ計画し創立60周年を祝いたい。

本部だより



２０２５年度 包装技術セミナーのご案内

主催：技術士包装物流会-日本包装専士会　後援：日本包装管理士会-日本包装コンサルタント協会

1. 講演の趣旨

リサイクルビジネスが業界として持続可能な成長を遂げていくためには、デジタルトランスフォーメーション（以下、「DX」という。）の推進により、脱炭素社会・循環経済に資する価値提供を行う必要があります。さらに近年、第五次循環型社会形成推進基本計画でも言及されたネイチャーポジティブ（自然再興）への寄与も求められる中、DXによる包括的な対策がますます重要になります。これらのDXの推進の必要性は、容器包装やその廃棄物のリサイクルも例外ではありません。今回は、国立研究開発法人 国立環境研究所・社会システム領域・システムイノベーション研究室の藤井実室長を招へいし、廃棄物処理・リサイクルにおけるDXとカーボンニュートラル推進についてご講演いただきます。

2. 演題　「包装廃棄物処理・リサイクルにおけるDXとカーボンニュートラルの推進」

講師：藤井 実 先生（工学博士）

国立研究開発法人 国立環境研究所 社会システム領域・システムイノベーション研究室 室長

廃棄物処理・リサイクルにおけるデジタル化推進について、双方向の意見交換の場を企画します

※現地参加検討の皆様へ※

当日の様子を撮影した写真を日本包装専士会または親団体の日本包装技術協会の機関誌や会報に記載することがありますがご了承下さい

日本包装管理士会後援 「包装技術セミナー」参加報告

道明　誠（23期）

2025年7月7日、東京都品川区の「きゅりあん」にて、技術士包装物流会と日本包装専士会の共催によるセミナー「包装廃棄物処理・リサイクルにおけるDXとカーボンニュートラルの推進」が開催されました。日本包装管理士会（IPP）および日本包装コンサルタント協会が後援し、約50名が来場、リモート参加も含むハイブリッド形式で実施されました。

冒頭では4団体の代表が挨拶し、IPPからは古平会長が登壇。講演は、国立環境研究所の藤井実室長が務め、DXやカーボンニュートラル推進における制度や社会的背景を交えて、広い視点から解説が行われました。LCCN（Life Cycle Carbon Neutral）やCCU（Carbon Capture and Utilization）など、実務に即した用語も紹介され、内容は高度で専門的でした。

質疑応答では多くの質問が寄せられ、活発な議論が展開。終了後は軽食を交えた懇親会も開かれ、名刺交換や意見交換が行われました。受講中の包装管理士講座の参加者からはIPP活動への関心も寄せられ、PPWR（包装・包装廃棄物規則）対応についても話題となるなど、知見とネットワークの共有に有意義な時間となりました。

今後も、こうした機会を通じて業界内外との連携を深めてまいります。

東北支部だより

東北支部 支部長
鈴木 雅彦（38期）

今年も東北地方は暑くなるのが早く、既に35度を超える日が続いています。日本全体がすっぽり亜熱帯の気候になってしまったのでしょうか…と以前にもご挨拶していました。

東北支部では総会を6月5日、仙台のTKPガーデンシティPREMIUM仙台西口ミーティングルーム5Nで開催されました。案内状発行45名、はがきによる委任状16名、Web委任状11名、会場参加者6名で総会成立することができました。参加者が少なく6名、ちょっと残念でした。それでもフリートークでは会員皆様の近況や市場動向について会話する時間が持てたことは、大変楽しく有意義な時を過ごすことができました。

議案審議もすべて提案通り承認いただきありがとうございます。特に今年度計画については、本部総会決議前のため、議案書には提案されておりませんでしたが、包装管理士会の活動方法の改革で支部制廃止に伴う今後の活動計画については、「その他」でいろいろとお話することができました。

東北支部の40周年記念事業はそのことも踏まえて、「全日本包装技術研究発表大会」の開催日に合わせて、集まれ「包装管理士」として計画いたします。管理士会で作ったネットワークをやはり有効に活用し、お互いの研鑽の場にすることも大事だと、参加者一同再認識しました。

今後は支部を超えた活動に期待し、今年度は見学会も計画しています。包装技術協会東北支部を、我々管理士会メンバーが支えるぐらいの気持ちをもって頑張ろうと、総会は終了いたしました。

中部支部だより

【2025年度包装設計の基礎講座】

2024年5月15日（木）・16日（金）の2日間、JPI 中部支部との共催で「2025年度包装設計の基礎講座」を愛知県技術開発交流センターで開催いたしました。

25名の受講者が参加し、輸送包装に関する各種専門講義のほか、段ボール箱の製作実習や試験設備の見学を含む全プログラムについて、講師各位・会場関係者のご協力のもと無事に開講することが出来ました。

西日本支部だより

西日本支部 支部長
末松洋亮（25期）

◆第59期包装管理士合格者
第59期の合格証書授与式（合格者29名）
（日程）2024年10月30日（水）
（講演発表）5名
（場所）西鉄イン福岡

◆交流会
（日程）2024年10月30日（水）
（場所）西鉄イン福岡 1 階ウォーターサイト・オットーにて

◆今後の活動予定

今年度もJPI様との協力関係により、講演会、見学会、交流会を対面で開催するよう準備を進め、インターネットを利用した情報発信等で充実した事業企画を目指していきます。
また、昨年と同様、関西支部と情報共有化を図ることで、会員の行事への参加を促す活動を行っていきます。

関西支部だより

木野元朝幸（36期）

関西支部では引き続きIPP再構築の動きを受け、会員の皆様にメリットを感じてもらえる様に工夫を重ねています。新たにテクニカルセミナーの開催、好評いただいている工場見学会&セミナーの増加などの取り組みをしています。

また、他支部や他団体との交流を図り、情報発信の拡大や会員の技術研鑽に取り組みます。

再構築会議メンバー

1、活動報告

◆見学会＆セミナー

2025年2月28日　13：30～16：30
セッツカートン㈱伊丹工場
① セッツカートン㈱伊丹工場見学
② セミナー
「倉庫型店舗段ボールと食品流通トレーの提案事例」
セッツカートン㈱ 木野元朝幸様

工場見学

＊工場見学

セッツカートン・伊丹工場は2012年にリニューアルされた段ボールケース・シート製造工場であり、最新の生産設備や画像検査装置を設置し、高品質で多様な用途に適した製品を供給している。工場では段ボールシート生産、印刷や打ち抜きなどのケース生産を見学。工場内は明るく整理整頓されており、終始丁寧な説明で参加者は大変勉強になった。

セミナー後の質疑応答

＊セミナー

セミナーでは2024年11月21～22日に行われた第62回全日本包装技術研究大会で優秀発表となった「デザイン提案や組み立て時間を短縮改善した倉庫型店舗段ボール」の他、「プラスチックから段ボールに変更したスマイルトレー」、「食品・飲料流通用の組み立て不要段ボール仕切」、災害時に必要とされる「避難所用パーテーション、暖段はこベッド」などについて紹介いただいた。また段ボール印刷色18色集約についての依頼もあった。

セミナー終了後、参加者から多くの質問が寄せられ、活発な質疑応答が行われた

交流会後の集合写真

見学会参加の皆様

◆第54回ミニセミナー

2025年3月24日　16：00～18：00
大阪市立総合生涯学習センター
① 「容器包装におけるプラスチック成型技術と減プラ・脱プラへの取り組み」
TOPPAN㈱　川崎　実様
② 「プリントメディア産業におけるこれからの市場が求める変化を探る」
㈱メディアワールドコミュニケーションズ　松根　琢様

TOPPAN㈱川崎様より、政府プラスチック資源循環戦略の基本原則「3R+Renewable」を受けプラスチック使用量削減は緊急課題となっており、プラスチック削減の国内外動向、再生プラスチック、バイオマスプラスチック、非プラスチック材料添加、成型技術（薄膜化、発泡化、複合化）によるプラスチック削減の取り組みなどについて紹介いただいた。

㈱メディアワールドコミュニケーションズの松根様より、ドイツで開催されたdrupa 2024でのAI&Innovationなどの最新情報より、デジタル化、熟練スタッフ、高生産性について説明いただいた。世界における価値あるMade in Germanyのブランドパワーはmade in Asia & Japanの市場においてどう変化するのかなど、これからの持続可能な成長に向けての講演をしていただいた。

セミナー会場風景

交流会後の集合写真

◆第55回ミニセミナー

2025年7月15日　15：30～17：30
ハートンホテル西梅田
① 「もみ殻を用いたガラスびんによるサーキュラーエコノミーの
　　達成と今後の展望」
　　日本山村硝子㈱　堀　詩織様
② 「脳が喜ぶ、心が笑う～「臨床美術」の不思議～」
　　エピファニー・ラボ　末吉　敬子様

堀講師

末吉講師

講演風景

　日本山村硝子㈱堀様より、リユース・リデュース・リサイクル3Rを全て適用できるガラスびんの新たな可能性として「行き場を失った廃棄物の受け皿となり、100年後もガラスびんへと生まれ変わることができるのか？」とのテーマで講演いただいた。
年間200万t排出され、廃棄や肥料となる米のもみ殻にはガラスの成分となるシリカが含有しており、もみ殻を2回熱処理することで透明なガラスびんが開発された。米はお酒に、もみ殻はお酒のガラスびんになることにより、お米ともみ殻が一緒になり、ゴミが出ないサーキュラーエコノミーが達成できた。
　もみ殻だけでなく、カルシウムを含む貝殻を使用したガラスびんの開発や、ガラスを溶かす際に1600℃の熱が必要でCO2排出量も多いが、水素やアンモニアを燃料とするCO2排出量削減の取り組みもご紹介いただいた。
ガラスびんを通じたゴミの出ない環境対応について貴重なご講演をいただいた。尚、この発表は第62回全日本包装技術研究大会富山大会で優秀発表者に選ばれ、2024年度第48回木下賞（包装技術賞）も受賞されている。

　エピファニー・ラボの末吉様より、「臨床美術」は絵やオブジェなどの作品を楽しみながら作ることにより脳を活性化させる独自のアートプログラムメソッドであり、子どもから高齢者まで幅広い対象に向けて実施され、近年では企業のストレスケア、コミュニケーション研修プログラムとしても注目されている。
作品づくりが人にどの様な変化をもたらすのかなど様々な実績をご紹介いただいた。

臨床美術は絵を描き、表現することで、視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚の五感に働きかけ、右脳を活性化させる。日常生活では左脳の方を使うことが多く、バランスが崩れ脳の疲労につながっているが、右脳を働かせることでバランスをとる。
五感を刺激する創作活動により、心と脳が活性化し、唯一無二の自己表現により自尊心・モチベーションが向上して、コミュニケーションを図ることができる。臨床美術は子どもの感性教育、大学などでの福祉教育、職場でのメンタルヘルスケア、介護の認知症やリハビリに活用されており、認知症では日本認知症予防学会でエビデンス認定を受けており、著名人も実践している。更にイベントや販促プロモーションなどでも活用され、私たちの生活やビジネスにも繋がっていると感じた。

交流会参加の皆様

交流会後の集合者写真

『 W会 活動紹介 ～見学会～ 』

W会代表　三笠産業(株)　遠藤明子

女性を中心に活動しているW会は、設立19年目を迎えています。勉強会や見学会を通じて容器包装分野の知識を広げながら、懇親を深めています。

●JCII高分子試験・評価センター 大阪事業所

2024/12/20に、東大阪市の（一財）化学研究評価機構 高分子試験・評価センターの大阪事業所を見学させていただきました。

今回の見学は、メンバーからのリクエストで見学会を企画した当初は、分析機器に関する技術的な知見を深めることが主な目的でしたが、見学日が近づいた頃、食品衛生法の溶出試験に関する改正が明らかになりました。

早速、「改正の最新情報もいただきたい」とセミナーをお願いしました。見学日が間近に迫ったタイミングでしたが、お引き受けいただいたことで、最新の改正情報と安全の確認・担保の重要性を理解することもできました。とても充実した見学会になりました。（この場をお借りして、お礼申し上げます。）

【写真提供】
JCII高分子試験･評価センター　大阪事業所
（東大阪市立産業技術支援センター内）

●講演：「器具・容器包装試験方法、規制の改正について」
大阪事務所 次長の早川様に、規制の改正について、ご説明いただきました。特に試験方法について、現行と比較しながら説明していただきました。
原材料の材質別規格の改正では、非意図的混入物等への適切なリスク管理を講じる目的で、樹脂の一般規格に総溶出物規格が導入されました。個別規格が定められていない樹脂には、過マンガン酸カリウム消費量試験に代えて、総溶出物試験を課す、という改正です。
現在、個別規格が定められている樹脂には、蒸発残留物試験がありますが、将来的には、個別規格が定められている樹脂の試験も、総溶出物試験に統一される、ということですので、合成樹脂製の器具・容器包装に関わる者にとっては、避けて通れない改正です。
試験法の改正によって、私たちの容器包装にどのような影響があるのか、ということについて、具体的な説明をしていただきました。
内容は専門的で、最初は戸惑いましたが、その後の機器見学で実演を交えた再説明があり、一気に理解が深まりました。「なるほど、こういうことだったのか！」と納得できました。改めて実感したのは、やはり「百聞は一見にしかず」だということです。
改正の行政文書は何度も読んでいたものの、現行規格との違いが今ひとつつかめなかった私にとって、非常に貴重な体験となりました。

●新業務紹介：「再生樹脂の第三者認証制度について」
見学日の3日前にホームページで公表された「リサイクルプラスチック材料認証業務」について、理事・センター長の荒川様より、ご説明いただきました。
食品用器具及び容器包装に使用するリサイクル材料と、その製造工程を認証する制度です。再生プラスチックの品質と安全性を第三者の立場から評価・認証するもので、食品用容器包装における再生材の利用拡大に向けた重要な一歩といえます。
2024年3月29日に公表された「食品用器具及び容器包装の製造に用いる合成樹脂の原材料としてのリサイクル材料の使用に関する指針」についてご解説いただいた後、認証申請の流れや、その過程で確認されるポイントについても詳しくご説明いただきました。そのおかげで、認証制度の要点をしっかりと理解することができました。
これまで再生樹脂には不明な点が多く、関心はあっても踏み込めずにいたメンバーも少なくありませんでしたが、今回のお話を通じて、制度が透明性や公平性を保ちつつ、企業の取り組みを後押しする内容であることが明確になり、大きな安心感を得ることができました。
質疑応答も活発に行われ、参加者からは「再生材活用に向けて、一歩前進できた」との声が多く聞かれ、今後の制度のさらなる広がりに期待が高まりました。

●懇親会：笑顔と活気が満ちたひととき
見学会の締めくくりは、居酒屋での懇親会です。技術的な学びと最新制度の情報整理、専門的な機器を利用した分析方法の理解に取り組んだ後は、緊張が解けたリラックスタイムです。
おいしい食事とともに話が弾み、笑顔の絶えないひとときは、メンバー間の距離を縮める貴重な時間です。会社の業務だけでなく、子育てや介護、地域での役割など、仕事と両立するための工夫など、共感しながら語り合える仲間の大切さを再認識しました。

北海道支部だより

北海道支部長
會田慶太（47期）

国内国外と様々な事が起きている昨今、皆様いかがお過ごしでしょうか？私の所属する北海道支部では、去る5月12日に総会を終え、新年度の活動がスタートしました。昨年度は、定期開催の運営委員会、JPI共催の包装管理士合格授与式、新春研究会等を実施いたしました。また、長く北海道支部を支えてくださった、小寺JPI事務局長の送別会を実施する事ができました。

今年度については、コロナの影響で長く開催を見送っておりました、JPI共催の納涼ビールパーティーを開催する事ができました。2019年以来6年ぶりの開催となり、幹事を務めるものとして、参加人数に不安を感じておりましたが、30名が集まり盛大に開催する事ができました。6年前の開催からは参加者も変わっており、やはり定期での開催が重要であると強く感じた次第です。

さて、最近の北海道について少し触れさせていただきます。コロナ後の観光回復で、街中には外国人を含め大勢の観光客が来ております。一部観光地ではオーバーツーリズム状態になっているとか・・・。観光業は順調に推移しておりますが、一方でその他の産業はどうかと言うと、食料品を含む様々な物の値上げ、人手不足、そして近年続いている猛暑により、その停滞感は肌で感じるレベルとなっております。一次産業が大きなウエイトを占める北海道において、この問題は深刻な事態となっております。

我々包装に携わる者が、この問題に対してどのくらいの貢献ができるか未知数ではありますが、少なくとも、コストダウン提案、省人化の取り組み、環境対策等で何かしらできることはあるかと思います。しっかりと問題意識をもって日々取り組みをしていきたいと考えております。

2025年7月22日

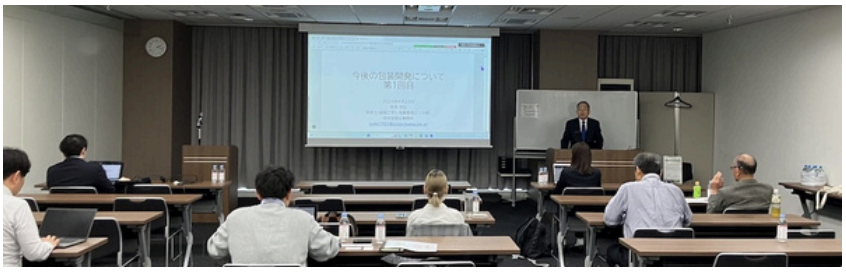
関東支部だより

包装管理士59期生優秀論文の発表及び環境系ワークショップ開催

古平 篤（25期）

関東支部主催の包装管理士59期生優秀論文の発表及び環境系ワークショップが3回シリーズで開催されています。

第1回目は、包装管理士59期生優秀論文の発表及び環境系ワークショップ（対面）を2025年4月23日（水） 東京駅近くのAP八重洲で開催しました。
第1部は13:00～14:00 包装管理士59期生優秀論文の発表（オンライン可）で、59期生3名の方の論文発表を行いました。
第2部は14:15～16:30 環境系セミナー及びワークショップを住本充弘氏（住本技術士事務所）が行いました。
第3部 16:45～18:45 は部屋を変えて懇親会（情報交換会）を行いました。
※参加者は会場での参加11名、オンライン参加9名となりました。



第2回目は、6月30日 13時30分～16時40分までZoom開催されました。
住本充弘氏（住本技術士事務所）が『欧州のPPWRのポイントと今後の日本の対応』の内容で講演され、その後『海外パッケージの最新情報 PPWRに適合するパッケージ』の内容で、パッケージング・ストラテジー・ジャパン 森泰正氏に講演していただきました。
※参加者は30名、
内訳は関東支部13名・59期生7名・関西支部10名でした。

第3回目も予定しており、9月中に開催の予定です。

一口メモ

PPWR（Packaging and Packaging Waste Regulation）とは、EUで導入の新しい包装規則。
再利用・リサイクルを促進し、過剰包装を抑制。日本企業にも対応が求められる国際的ルールです。

国立印刷局東京工場見学会

フジモリ産業株式会社 田村正幸(27期)

関東支部主催の見学会として、3月4日（火） 国立印刷局東京工場の見学会を実施しました。
今回の見学にあたりセキュリティー面で参加の皆様には身分証明書の持参と提示にご協力いただきありがとうございました。
国立印刷局は国内6つの工場がありお札の製造やパスポート、切手などの証券類、官報などの印刷物の製造も行っています。今回はその一つの東京工場を見学してきました。東京工場では主に新紙幣の10000円札と1000円札を製造しています。2班に分かれて製造現場見学と展示室見学をしていきます。

厳重な管理のもと、製造工場見学では「印刷」→「ホログラム」→「ナンバリング」→「断裁」→「検査・仕上げ」→「封包」が行われているのを2階の見学ルームから見学します。

製造された紙幣の枚数を管理していますが、一枚でも合わないと帰れないらしい。今はほぼないとのことですが、印刷途中で機械に挟まり破れたりすると断片をすべて集めるまで工場から出られないことがあるようです。一昔前までは、この建物の出入りにあたっては、裸になって検査を受ける必要があったとの説明を受けました。今は人権問題等もあり廃止されているとのことです。

展示室ではお札の偽造防止の緻密な肖像印刷、高精細すき入れ、マイクロ文字の印刷、3Dホログラムや識別マークを入れているなどの細部にわたる特殊技法を取り入れた紙幣の最先端技術を分かりやすく理解することができました。

1億円の重さを体験できるコーナーでケースに入った1億円の束を両脇から手を入れて持ってみるところで、みなさん記念写真を撮ってました。

その後印刷局から近いところにある紙の博物館にて製紙の歴史を見て回り、同じく近くの懇親会場で親睦をはかりました。

IPP見学会

実 施 日　　：2025年5月14日（水曜日）
見学場所　　：1）東京証券取引所（東証）
　　2）小津和紙
参加人数　　：見学会11名、情報交換会9名

【実施報告】

天気予報では曇りのち晴れでしたが、昼前から晴れ間が見え、気温は20℃を超えたようでした。湿度も高かったこともあり、東証建屋西ゲート前集合の13時50分には不快指数を感じる状況でした。西ゲートには警備の方がいて「館内でお待ちください」と声をかけていただき、待ち時間でも暑さをしのぐことができました。

定刻14時ちょうどから案内係の説明を受けながら館内を見学、日頃TVニュースで見慣れた光景がありました。「あれ！」と言うほどに人が少なく、聞くところによると、コロナの頃から働き方に変化があったそうです。この見学では我々の他に「みずほファイナンシャル」の方々も参加しており、金融関連企業の研修の場でもあることを改めて知ることができました。

約1時間の見学後、東証応接コーナーで15分ほどの休憩をさせていただき、2件目の「小津和紙」に向けて出発しました。東証から15分ほどの距離ですが、30分ほどを費やし写真撮影をしながら、日本橋界隈を見学しつつ、小津和紙到着16時と予定通りです。

映像を見ながら説明員の案内を聞きつつ「和紙」について学び、こんなもの（たび、服、小物など）まで和紙で作れるのだと勉強いたしました。「小津和紙の経歴」、「日本橋界隈の大店の当時のあり方や歴史」などの説明を受け、参加者一同大いに参考になり、興味を持ったことでしょう。

17時30分より小津和紙近くの飲食店で情報交換会を行いました。名刺交換、今後のIPPのあり方、今日の見学会を振り返り、反省などを踏まえ、会話が弾んだことと思います。

約2時間の情報交換会を無事に終了し、19時30分の解散の運びとなりました。

【関東支部　新理事紹介】

理事就任について
理事 櫻井 淳（34期）

　このたび、2025年4月1日付で日本包装管理士会関東支部の理事に就任いたしました、長島梱包株式会社の櫻井淳です。
私はこれまで、工業包装の分野において、製品の保護・効率的な物流・環境配慮といった観点から、包装設計や資材選定、現場改善などに携わってまいりました。包装は単なる 「包む」行為ではなく、製品価値を守り、社会と産業をつなぐ重要なインフラであると考えております。日本包装管理士会は、包装に関する知識と技術を深め、会員相互の研鑽と交流を通じて、業界全体の発展に寄与する貴重な場です。理事として、これまでの経験を活かしながら、 特に工業包装の視点から、実務に根ざした提案や活動を推進してまいりたいと考えております。
今後とも、皆様のご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和7年７月

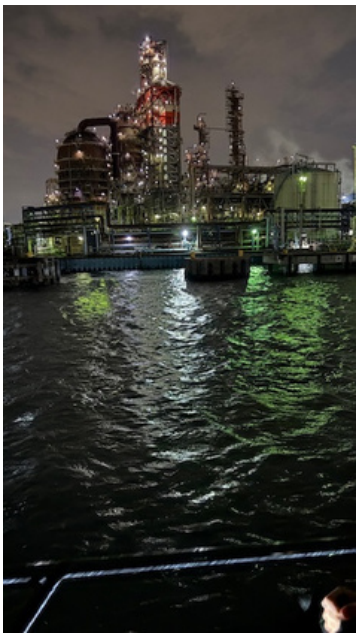
理事就任について
理事 小倉 崇宏（59期）

　初めまして、この度IPP関東支部理事に任命いただきました、王子コンテナーの小倉と申します。第59期包装管理士卒業生になり、現在は王子コンテナー株式会社つくば工場で営業部に所属しております。偶然ではありますが、昭和59年生まれの第59期生でございます。
　普段は各得意先様へ段ボール中心に梱包資材やシートのご提案などを行っており、今回の包装管理士試験で学んだ知識を毎日活用できており、
日々知識を身に付けてはお客様へのご提案に活用する毎日を送っております。こんな私でも包装管理士会へ少しでも恩返しができればと思っております。分からないことがまだ多いですが、皆様のお役に立てるよう精一杯頑張ります。

【関東支部　新事務局長紹介】

事務局長就任について
理事 須藤 貴行（31期）

　31期、関東支部の須藤貴行です。元々、財務担当をしておりましたが、2024年12月をもって、退職したことをきっかけに、2024年度の期の途中の3月頃から関東支部の事務局を務めております。古平支部長がIPP会長と事務局業務を兼務されていたので、その負担を軽減すべく引き受けました。
　小生、ITは全くと言っていいほど、疎いのですが、200名を超える支部会員への一斉メールに数時間を要していたと伺い有料版のGoogle Workspaceの利用を開始。連絡先の手入力こそ、何時間も費やしましたが、一斉メールそのものは非常に楽になりました。また、懇親会・見学会・セミナーの募集、支部総会の議決権行使等もGoogle Formを利用することで、自動返信メールを実施、参加者名簿の作成も簡単に作成出来たりと、大分省力化が叶ったと思います。
　関東地域活動連絡会への移行までに一年を切りましたが、支部運営に貢献すべく、微力ではありますが、努力してまいりたいと考えております。



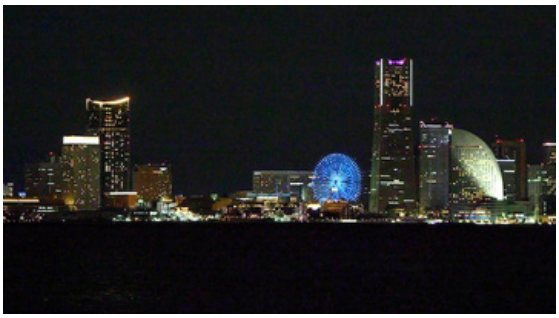
2025写真研究会の報告

関東支部写真研究会　荒牧 哲（23期)

写真の上達と会員相互の親睦を目指して、次の撮影会を開きました。

1.船からの横浜工場夜景

25年3月30日16時に集合し、中華街で早めの夕食を済ませ、ピア象の鼻から乗船、京浜運河などを航行しました。JFEスチール東日本製鉄所、東扇島火力発電所、川崎製油所、京浜製油所、海からの「みなとみらい」を撮影しました。撮影のため1時間半ほど2Fデッキに陣取りましたが、風当たりが強く、指がかじかみ、カメラを落とすほどの寒さでした。手袋が必須でした。



2.高円寺びっくり大道芸

25年4月26日15時にJR高円寺駅に集合し、出演者・演舞場・開始時刻を確認しながら各自撮影に回りました。通り雨に遭うなどありましたが、17時には撮影終了。全員集合し、お値打ちの町中華に向かい懇親を深めました。写真は大駱駝艦（金粉ダンスショー）のダンサーと大駱駝艦を撮影していたメンバーです。

次の撮影会は、柴又帝釈天の縁日（四庚申25年8月19日(火)）を予定しています。なお、25年11月予定の第20回愉しい写真展は、会場の都合で26年4月以降の開催になります。写真展展示作品作りのための顧問の写真家によるオンライン添削も進めていきます。また、当研究会への入会希望の方は関東支部事務局あてメールでお申し込みください。

日本包装管理士会関東支部 新春懇親会

須藤 貴行（31期）

去る 2月7日に池袋西口ビヤホール『銀座ライオン』において、新春懇親会を開催いたしました。
これは昨年9月の納涼懇親会・12月の忘年懇親会に続く第3弾で、一般会員のイベント参加を向上させる狙いで続けております。
今回は理事5名・一般会員10名、計15名の参加となり、13期の先輩の懐かしい顔、忘年会に続いてリピートで来ていただいた方、特に59期の仮会員の女性の参加もあり、美味しいお酒・料理をいただき、楽しい会話に花が咲き、和やかな雰囲気の中、会員同士の交流が一層深まったことと思います。
今後も続けて参りますので、皆様のご参加をお待ちいたしております。

観桜懇親会を開催しました

須藤 貴行（31期）

関東支部では去る3月28日（金）午後6時30分にJR市ヶ谷駅近くの外濠公園に集合。多くの人出で賑わうお堀端の桜を夜桜見物と洒落込み、散策を兼ねて神楽坂まで移動、エビスバー神楽坂店にて、楽しい歓談のひと時を過ごしました。
参加者は総勢9名となり、なかには退会された会員の方も1名、案内を見つけ、昔を懐かしんで、参加してくださいました。

世界の食を楽しむ会開催

古平　篤（25期）

世界の食を楽しむ会が7月3日（木）、埼京線・板橋駅近くにある仏蘭西料理「パリ4区」で18時30分から開催され、9名が参加しました。新しい方2名が参加し、仏蘭西料理をフルコース（フォワグラ含む）で味わいながら情報交換会を行い、20時30分に終了しました。

編集後記

まだ暑さが残る夕暮れどき、駅のエスカレーターでふと、人の流れに目を向けていました。前の人との距離を保ち、黙って列を作る人々。誰が決めたわけでもないのに、不思議と成り立っているその静かな秩序に、小さな感動を覚えます。そして時折、その流れがふと止まると、どこか気まずさのようなものが漂います。誰かが声を発したわけでもないのに、「うまくいかない感じ」が空気ににじむ瞬間。

人の集まりって、面白いですね。声を交わさずとも通じ合えることもあれば、うまく言葉にできなくてすれ違うこともある。それでも、そんな場で出会う人たちの存在が、ふと背中を押してくれることがあります。

この秋も、新しい風がどこかから吹いてくる予感がしています。次の出会いを楽しみにしながら、また歩いていきたいと思います。

（ippニュース編集委員会　道明　誠）

日本包装管理士会 /Institute of Packaging Professionals, Japan

e-mail: ipp@pk9.so-net.ne.jp
https://www.ippj.net /

■本部	〒 104-0045	東京都中央区築地4–1–1-東劇ビル10F 日本包装技術協会内	TEL：03-3543-9250 FAX：03-3543-8970
■北海道支部	〒 060-0001	札幌市中央区北一条西2丁目 北海道経済センタービル 北海道生産性本部内/日本包装技術協会・北海道支部内	TEL：011-241-8591 FAX：011-241-3898
■東北支部	〒 021-0893	岩手県一関市地主町 3 –35 株式会社東北ウエノ内	TEL：0191-21-4531 FAX：0191-21-5381
■関東支部	〒 115-0051	東京都北区浮間1–7–17 ※古平 篤 関東支部長宅	ipp.kanto.pack.50@gmail.com
■中部支部	〒 460-0003	名古屋市中区錦3–5–21 錦HOTEIビル 3D 日本包装技術協会内	TEL：052-228-2930 FAX：052-228-2980
■関西支部	〒 550-0014	大阪市西区北堀江1–1–27 イマイビル4階	携帯：090-4305-3906 (桃川) FAX：06-6584-8986
■西日本支部	〒 849-0917	佐賀県佐賀市高木瀬町長瀬870-1 ※八田 彰 西日本支部 事務局長宅	携帯：090-4586-7509 tsubonoue2019@gmail.com

日本包装管理士会 会員登録データ変更届

■宛先　日本包装管理士会事務局　FAX: 03-3543-8970　☎03-3543-9250

フリガナ		会員番号	番
氏名		届出日	令和　年　月　日
会社	社名 所属 住所　〒 TEL　FAX E-mail		
自宅	住所　〒 TEL　FAX E-mail		